

18 豪雪を教訓に雪に強い体制づくりを!

樋口議員が一般質問



ごみの最終処分場整備計画問題を取りあげた樋口議員の一般質問はマスコミにも注目されました。

「地球環境都市宣言をしている市として、現候補地（茶屋ヶ原の）を除くべきだ」との訴えに、木浦市長は、「地元で排出したごみを自区内処理せず、他地域にお願いしている現状こそ地球環境都市宣言として早急に改善すべき行政課題だ。現在計画されている廃棄物処理施設については、環境への十分な配慮がなされており、新年度には現候補地を含めて、市内全域を対象にして処分場

適地選定調査を実施する」と答えるにとどまりました。

雪に強い体制づくりに関しては、災害救助法適用のあり方、適用された場合の対応マニュアルの作成、民生委員や町内会長との連携強化について市長の見解をたどりました。

このうち、災害救助法の適用について樋口議員は、「今後、1つの区だけでも該当の区があれば、全市に適用させるべき」と改めて主張しました。これに対して市長は、「積雪量の多い少ないも一定の基準とはなるものの、高齢社会や中山間地の地域事情などを勘案すれば、法等の適用にかかわる判断は、合併前の市町村の区域の状況により行うべきで、救助の実施及び国、県による救助費用の負担等は、合併後の市町村の区域全域を対象にすべきもの」と賛同しました。また市長は、県の災害救助条例の改正がなされた場合、6月定例市議会において、市の災害救助条例改正を提案していくとのべました。

日本共産党上越市議団ニュース

44 2006年4月2日
 連絡先 杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
 樋口良子 544-6802 (中門前3)
 橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)
 事務局長 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)



キクザキイチゲ開花

市が中山間地の限界集落を調査し、施策の検討へ

橋爪議員の一般質問で

過疎対策が一步前進することになりました。橋爪議員が「限界集落」の現状を一般質問でとりあげた結果、市が早急に実態を把握し、具体的な施策の検討につなげていくことになったのです。

「限界集落」というのは、65歳以上の人口比率が50%を超える集落をいいます。共同作業ができなくなる、役員のなりてがないなど、集落機能の維持が困難になっているところが多く、集落消滅の可能性をはらんでいます。

同議員は、実

態調査に当たっては、集落内の住民と懇談し、要望をしっかりとつかむよう求めました。

新潟県が再度見直すとしている冬期保安要員

制度。市長は、「現在、保安要員を置いている地区全てを補助対象として事業の継続を要請する」だけでなく、「過疎化や高齢化の現状を踏まえた設置要件を求めていく」と答えました。

市民の死亡原因の4番目になっている肺炎対策として、橋爪議員は、肺炎球菌ワクチン接種に対する公費助成制度をつくるべきだと主張しました。市長は検討に値するとしながらも、ワクチンの有効性や安全性などの面で、国の動向をしばらく見守る必要があると慎重でした。

注目の品目横断的経営安定対策への対応の問題で橋爪議員は、上越市食料・農業・農村基本条例に沿った対応を求めました。国が示す一定の面積要件を満たす認定農業者や生産組織などへの支援だけでなく、そこまではない農業者などへも支援の手を差し伸べよとの訴えに、市長は、「小規模ながらも多面的機能を発揮したり、自然保護などに貢献している、意欲ある農業者へもしっかり目をやりながら施策を講じていく」と約束しました。



杉本敏宏、橋爪法一両議員、及び上野公悦事務局長のホームページでは活動日誌を連日のように書いています。ぜひお読みください。各ホームページは、フルネームを入力して検索すればすぐ見つかります。